

チェンジ 日本の自給率を考えよう

未曾有の経済危機のライフスタイルの見直し改革のチャンス

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)



明けましておめでとございます。皆さま方にはそれぞれ新たな希望と決意を抱いて新しい年を迎えられたことと思います。

平地には雪もなく、時に台風並みの強い風が吹くことを除けば越後は雪国だったのではないかと思われてくるような穏やかな正月でした。積雪が少なすぎると用水不足になるのではないかと等と早くも心配しているところですが、今後に期待する他ないのですが。

昨年は歴史の転換期を迎えたのではないかと思われるほど、実に様々なことがありました。なんとと言っても、米国のサブプライムローンに端を発した金融不安が世界的な実態経済危機に拡大したことです。軍事力を背景にしたこれまでの米国の世界支配体制が破綻したと指摘されていますがその通りでしょう。日本でも自動車を中心とした輸出産業が減産体制に追い込まれ、派遣労働者を中心に大

量の解雇がおこなわれ失業者が溢れてしまっています。好況の時には表ざたにならなかつた労働者の使い捨て等、企業の利益優先の論理や社会構造の基本的問題点が表面化し、小泉流構造改革路線が破綻したと捉えるべきでしょう。

しかし、米国は大きく変わるうとしています。米国民は大統領選挙でオバマを選択しました。国民が従来選択した政治・経済体制からの「チェンジ」を期待したからに他なりません。

それに比べて日本の政治はなんとも情けない有様だと言いたくなります。麻生総理と政策政党である自公の迷走はもろろんですが、民主党も議会内での駆け引きと党利党略ばかりではないかと思われる状態だけが目立ちます。「ダメなもの」を通過した土井さんを懐かしく思い出します。政治も経済もグローバル化しているのにアメリカのご意向を伺うことだけに専念し、内政ではその場限りの小手先対応に終始して長期的、大局的な議論や検討がおざなりにされているように思っています。私だけでしょうか。

私たち生産者に関わる食品の安全性を巡っても多く

の問題が噴出しました。輸入食品の安全性に対する問題と、国内の食品関連産業による偽装や表示違反問題です。消費者の食に対する信頼を大きく失う結果になってしまいました。マスコミにも責任があるのでしようが、当該企業・業者と末端行政機関の責任追及だけに終始して、消費者自身も問題の本質を考察し、追及することを途中で放棄させられていくようです。これは今後同様の事例が繰り返しておきてしまうでしょう。

一番の問題点は日本の自給率のあまりの低さです。輸出産物の振興と発展に軸足がおかれ、貿易収支のバランスを保つ手段として国民の食料を海外に依存し続けてきてしまいました。

その結果、日本人の食生活は外国農産物なしではまったく成り立たなくなっています。金さえ出せば好きなものをいくらでも買えるなどという事がいつまで続くのでしょうか。日本の食糧大量輸入で貧しい国の人たちの食料をより一層厳しいものにしていくことや、世界一といわれている日本のフードマイレージによって環境汚染を引き起こし、更にその食料の三分の一をも

捨てている現実を目をそむけ続けることは許されないのではないのでしょうか。

国の基本政策を転換しなければ解決できない課題ではありますが、消費者を含めて日本人の食についてどうあるべきかの合意形成に向けて、私たち生産者や加工業者・流通業者としての役割をそれぞれの立場で見出し、連携を深めていくことが益々求められているのではないのでしょうか。

「生産調整の見直し」が昨年から言われはじめてきました。多少の変遷はありましたが半世紀近くも続いた減反政策で大変な歳費を使つて農村と生産者、そして消費者にどんな恩恵があり成果を生み出せたのでしょうか。政策転換が必要なのは依存のないところでしようが、拙速な対応だけは御免こうむりたいものです。

世界の食糧事情、日本の自給率、農村集落の存続、環境問題、農業関連産業、財政問題、食の安全性そして消費者と生産者の関係など等、グローバルで長期的視点に立つて国民的な議論と合意形成を求めたいものです。

皆さま方にとって今年が良い年に、またはその転換点になるよう願っています。

(内山常蔵 記)

ゆきの精
こしいぶき
春 陽

加工米 取り扱いを開始します
新規需要米

米粉に挑戦したい方、調製水田で米を栽培したい方等、ご連絡お待ちしております。

TEL 0258-66-0070

ホームページ リニューアル!

<http://www.eco-rice.jp/>
是非ご覧ください

Radix新潟

高橋徹さんからのメッセージ

たはかしとおる



二〇〇八年は台風などによる自然災害もなく、農家といたしましては安心して作物を育てることが出来る良い年でした。

数年來続けてきた土壌診断による施肥設計も実績となつて現れたように思います。作付初期は普通栽培に比べて見劣りするのですが、その後徐々に白い根が張り始め、葉がスツと伸び始めると夏を迎える頃から違いがはつきり分かるようになります。

有機栽培を始めた頃は、ただ堆肥や有機物を作物に与えていれば良いのかと思つていました。有機農業には有機農業に適した栽培方法があることを改めて知らされました。農業は一年一年自然条件も違えば土壌成分も違つてきます。毎年一年生のつもりで緊張感を持つて有機農業に取り組みたいと思つています。

昨年の春以来、ガソリン等の燃料と穀物の値上がりで、世界中に激震が走りまわりました。特にオーストラリア・中国・アルゼンチン等穀物輸出国が一斉に輸出禁止令を出した時には世界中の穀物を買ひあさつている日本としては、この後どうなることかと心配させられました。

そして金融不安。値上がったものは値下がりし、今後は世界的な大企業ですら倒産の心配で震えています。思えば遠くに来たもんだ。という感覚があります。新自由主義・市場原理主義と離し立てて自由貿易(グローバルイズム)こそ正統と言わんばかりに政治・経済を自分たちの都合の良いように作り上げてきました。値の高い、安いだけで世界中から物

を買ひ集め、それによつて世界中の自然を破壊し、人間をも物か虫けらのように扱ひ更にもつと儲けなければ、と投資マネーによるマネーゲーム・賭博経済に走つた結果ではないのでしょうか。その自由貿易(グローバルイズム)のやり玉に挙げられたのが、世界中の農業です。

日本の農業は面積が小さく、コストばかりかかつて生産性が低いと規模ではアメリカ・オーストラリアと比較し、人件費は東南アジアの人々(物価が低い)と比較することで、日本の農業は邪魔者扱い。国際分業化することにより経済発展が望めるというものでした。

しかしながら国際分業化したところで規模の大きいアメリカ・オーストラリアの農民はより低コストな農産物を求められ、際限のない規模拡大に追われ、東南アジアの低所得者も、より安い労働者と比較されることで、低所得から抜け出すことが出来ません。結果的に安心して農業ができる農家・農民はどこにもない。ただ訳も分からず市場原理、自由貿易という呪文に振り回されただけではなかつたのでしょうか。

農業は本来、その国々の自然条件や地域性で違いがあります。それを自由貿易という



単純化された枠の中で考えてしまつたからこそ、環境破壊があつたり格差を招いてしまつたのではないかと思ひます。今、巷では経済破綻・不況という言葉が氾濫しています。が、そんな今だからこそ物質的な豊かさを求めて私たちが失いかけている足元を改めて見つめ直す絶好のチャンスです。少し考え方を換え、人間が人間らしく生きていくことを考えれば、十分豊かさは享受できるはず。経済破綻より大変だと言われる環境破壊のことを思えば、物の使い捨て社会から循環型社会に切り替えるための絶好の機会ではないかと思ひます。人間は本来、自然と共に暮らし、自然から取れるものを食して生きてきました。「天空の城 ラピュタ」でシターが言つたように「人は土から離れては生きていけない」のです。

有機農産物生産工程管理者 小分け業者認定講習会のお知らせ

日時	2月15日(日)10時~17時
場所	ウェルサンピア新潟
受講料	民稲研認証センター法人会員 個人会員、賛助会員.....4,000円 一般.....8,000円

認定事業者の方は原則毎年受講となりますので必ず受講してください。

詳しくは、民間稲作研究所認証センター
(TEL 0285-53-1198 FAX 0285-53-1512)まで
お問い合わせください。

幸いにも日本は海の幸・山の幸に恵まれ、山は人手不足で荒れ果てています。農村人口の減少で耕作放棄地が農政の愚策によつて政治問題化するくらい広がつています。食料自給率は40%で、穀物自給率は27%という有様です。そして本心はどうあれ、国で食料自給率を10年後には45%に上げる目標を掲げながら1%上げるだけでも四苦八苦している状態ですから国の食糧安全保障にも役立ちます。こう考えていくとこんなにも働きがいがあり環境破壊をも食い止めることのできる仕事は農林漁業しかない！二十一世紀は第一次産業の時代のようです。

自然を破壊してきた農業・化学肥料つけの農業も資材価格の高騰で本来地元にある有機物や食品残渣等による堆肥作りが活発に行われるようになってきました。いずれ有機農業が特別な農業ではなく、ごく当たり前になる日も近いのかも知れません。今、世界で一番国民満足度が高い国は、経済発展している中国でもなく無論アメリカでもなく、ヒマラヤ山脈にある「ブータン王国」だそうなんです。私も詳しくは知りませんが、テレビで見る人々は皆満ち足りた顔をしていました。新しい年は物を持つ幸福ではなく、心から楽しく思つてそれが顔に表れるような幸福にしたいと思ひます。